

平成 26 年第 1 回 札幌市中小企業振興審議会

平成 26 年 11 月 27 日（木）10:00～
STV北2条ビル 地下1階会議室

（関連意見の概要 市作成会議録より道が抜粋）

- ◎ 主婦の再就職支援セミナーを実施しているが、主婦の方は再就職したくてもしょうがない。認可保育所の待機児童問題、雇用のミスマッチ（主婦は週3回、9時から15時を希望するが、企業は9時から18時のフルタイムの正社員の採用を希望している）の2点のハードルがある。
- ◎ この厳しい経済情勢の中では、創業してすぐどんどんいけるわけではないので、創業支援ではなく、企業変革をどう支援するかという問題に取り組むことが必要。
- ◎ 廃業が多い。原因は後継者不足が多いが、事業価値があるのもったいないと思う。事業を買ってもらう人を探し出して事業を継続していくことが重要であり、そういうネットワークを作っていくことが大事。
- ◎ 2000年（平成12年）から起業支援を行っているが、当時直面した問題が今でも同じ問題として長らくある。今の創業支援のシステムを抜本的に改革しない限り、10年後も同じ問題を議論していると思う。このあたりでドラスチックに創業支援を変えていただきたい。
- ◎ 鳥取県は出生率が上がっている。県に子育て王国推進局があり、男女共生、ワーク・ライフ・バランスをきちんとしているところを指定したり、表彰したり、優遇するシステムを作っている。
- ◎ 経営者、特に零細企業の経営は「資金繰りに始まって資金繰りに終わる」。資金繰りがうまくいかなければどんなロマンも花咲かない。時代のニーズを捉えて生きていかなければならないというのはわかるが、頭が固くなっており、時代のニーズをなかなか取り込めず、時間切れの廃業となってしまう場合が出てくる。M&Aができるのなら廃業はしない。40代までは希望や夢にあふれていて可能性が沢山あったが、高齢者が増えていくと未来を語る環境がなくなってくる。
- ◎ （スポーツ用品小売業では）、メーカーが紙のカタログを作らない、iPadをカタログ代わりにしてお客さんに見せて、在庫も確認するという業界になるといわれている。（端末を）使いこなせなければ、どんどん置かれていく状態。小さいお店はもう残れないのかと心配になる。
- ◎ これからの人口減少社会では外からの売上をどう持ってくるかが大事。輸出企業を育てるにはグローバル経済の時代では難しい面もあるので、インバウンド観光の視点に注目しなければならないと思っている。北海道に外貨を持ってきてくれるという意味では一つの輸出産業と見てもいいと考える。
- ◎ ヘルスケア産業について、地域包括ケアがこれから本格的に進む。公的保険でカバーできない部分、公的な保険外のサービスといったところをビジネスとしてしっかりやっていくことが大事だと思う。